



対談

アマチュアからプロへ。
それを支えたものは、情熱！

劇団自由人会の創立メンバーに、普段は聞けないお話をじっくり聞いてみました！

代表 森 × 演出 ふるかわ × 制作 祐樹



「夢・桃中軒牛衛門の」(作/宮本研)の再演を紹介する記事。さて、森さんとはどこでしょう・・・？若い！
(出典：月刊神戸っ子 1986年9月号)



演出 ふるかわ照

学生時代より芝居を始める。1964年に民藝「夜明け前 第1部」に感動、本格的に芝居の道へ。関西芸術座・劇団ふおるむなどで活動後、1980年森もりこと共に、プロ劇団設立。以後、劇団自由人会でも、脚本・演出を務める。代表作に「キネマ・らぶそでい」「カーリーの青春」「6年3組の阪神大震災」など。

森 全く(笑)。「青い森」は最初から学校巡演を活動の主軸にと決めていました。それは「自我の確立」という、ふるかわ作品のテーマが絶対に青少年に響くと思うから。それに、十分プロとして通用する芝居を創っている自負がありました。

森 でも、今はまた別の苦労があります。例えば大昔の築地小劇場を考えても、何も無いところから新しいものが生まれる興奮や感動

ふるかわ 僕は、一九六四年に民藝の芝居を観て、その舞台美術と照明の美しさに感動しました。舞台美術は伊藤薫朔さん、照明は穴沢喜美男さんで、あれは泣いたなあ。本当にいい芝居だった。そ

いきなりプロになることに不安はありませんでしたか？

プロになって、色んな苦労があったと思いますが。

プロになろうと思ったきっかけを教えてください。
祐樹 役者として巡演三昧の日々を送っていた頃は、あまり意識していませんでした。芝居が出来れば楽しいってそれだけで。一九九四年の「劇団自由人会」旗揚げの際、森さんから制作部長を頼まれて、制作の仕事の本格的に始めました。制作は役者と違って、努力の結果が数字ではっきり表れるから、どんどんやりがいを感じて、それがこの道で生きようと思ったきっかけですね。

森 私はアマチュア劇団で芝居を始めて、のめりこんでいきました。一九七九年にその劇団で「夢・桃中軒牛衛門の」をして、皆の団費で賄えないくらいの大赤字を出したんです。それで「演劇で作った赤字を演劇で返そう」となり、皆で「せーの！」で仕事を辞めて、すぐにプロとして活動する「劇団青い森」を旗揚げしました。今考えたら、それが大きな転機ですね。

代表 森もりこ

1978年、保育士時代にお遊戯の勉強にとアマチュア劇団に入団。1980年劇団青い森(～2005)を旗揚げ、代表に就任。1994年劇団自由人会旗揚げ、代表に就任。現在、兵庫県劇団協議会代表、兵庫県文化懇話会委員も務める。2022年兵庫県文化功労賞受賞。



演劇鑑賞会行事にて演劇上演の実態調査【高等学校】

年度	高等学校における演劇鑑賞者数の推移			高等学校における鑑賞校数の推移		
	鑑賞数	全生徒数	観劇生徒率	鑑賞校	学校総数	上演校率
1980		4,621,930			5,208	
1990		5,623,336			5,506	
2004	669,841	3,719,048	18.1%	897	5,429	16.5%
2011	464,388	3,349,255	13.9%	726	5,060	14.3%
2012	424,001	3,355,609	12.6%	678	5,022	13.5%
2013	442,868	3,319,640	13.3%	690	4,981	13.9%
2014	465,015	3,334,019	13.9%	711	4,963	14.3%
2015	380,229	3,319,114	11.5%	615	4,939	12.5%
2016	324,579	3,309,342	9.8%	508	4,925	10.3%
2017	333,437	3,280,247	10.2%	560	4,907	11.4%
2018	288,294	3,235,661	8.9%	455	4,897	9.3%
2019	182,597	3,168,369	5.8%	283	4,887	5.8%
2020	31,494	3,092,064	1.0%	55	4,874	1.1%
2021	149,477	3,008,172	5.0%	267	4,856	5.5%
2022		2,956,900			4,824	

※データ元/全生徒数と学校総数は、文部科学省の「学校基本調査」より、鑑賞数と鑑賞校は、日本劇団協議会発行「上演記録に関する調査研究報告書 正会員団体上演記録【学校公演】」より（但し、2019年度の調査結果について、2020年度コロナ禍の混乱期に実態調査が行われた為、調査を十分に行う事が出来なかった可能性が伺える。）

でもどこでも手に取ることが出来る映像作品と同じ括りで捉えられているなど、コロナ禍で公演が中止になった時にも感じました。私たちは常に稽古や準備を行っていて、万全の体制を整え、公演を行います。本番は最後の最後なんです。でもその本番が、コロナ禍で簡単に中止となり、上演料が入らない。それまでの9割の活動がまるで無かったことになる。他のジャンルに比べて、演劇は費用がかかります。でもなかなか理解してもらえない。これは、演劇に対する社会の理

解が低い事が原因です。また、年々物価や人件費が上がっています。学校の芸術鑑賞行事の予算は40年間ほぼ横ばい、むしろ減っています。このままでは、劇団の努力だけでは活動を維持することが出来なくなる限界が近づいている、そういった深刻な状況です。

そこまで深刻な状況なんです。

祐樹 そうですね。でも、諦めてはいません。未来に希望を持つとすれば、減ってはいても二〇二一年は約15万人の高校生が演劇を鑑賞した訳です。もしこの15万人に、一生忘れられない感動を届けられたら、必ず未来に繋がる筈です。それは将来の日本の演劇文化を守る事になります。同時に、演劇活動への理解を深められるような新しいアプローチも考えていきたいですね。

制作部では鑑賞の機会を増やす為に、どんな取り組みをしていますか？

祐樹 学校巡演の場合は、生徒さんの演劇鑑賞の機会「芸術鑑賞会」を先生と共に創る、というスタンスを大切にしています。予算・時間・場所など学校が抱えるニーズ・課題は様々です。だから、制作部には各地域の担当者を置いています。担当者が細かいニーズを先生にお伺いし、分かり易く具体的な提案をしています。更に公演が決定した後も、「また絶対に演劇鑑賞を実施しよう！」と想ってもらえる様、先生の負担の軽減を図り、公演実

施の成功まで徹底的にサポートを行っています。どんなに評判のいいお芝居でも、現実的な課題を解決できなければ実施は困難ですよ。だから、「共に創る」という意識で先生1人1人に寄り添った対応を徹底していますし、そのような対応が出来る制作部の体制を整えています。

代表に伺います。学校行事の中で、演劇鑑賞会を行う魅力は何だと思えますか？

森 今の子供たちは遊び一つにとっても、出来上がったものを与えられています。出来上がったおもちゃ、娯楽、ゲーム、大人が決めた枠組みの中で遊ぶ、選ぶという時代。又、インターネットの発達で行動する前からあらゆるリサーチが出来るから、大きな失敗の経験も少ない。でも演劇は「なまもの」。極端な事を言えば、幕が下りるまでどうなるかわからない。芝居は、その日のお客様の反応でも変わる。その生の良さ、演劇の魅力を、子供たちに知ってほしいと思います。創造の喜び、人と人の対話の中で生まれる未知の感情・衝動が演劇にはある。演劇は誰

学校巡演の現状と今後

演劇鑑賞行事の魅力とは

代表 森×演出 ふるかわ×制作 祐樹

が、役者にもお客様にもあったと思う。

私達も当時そうでした。最初、ふるかわさん以外は舞台の事が何一つ分からない、そんな手探りの状態。だから体育館に徹夜で仕込んだり、本番で転換が失敗したり、今考えればハプニングがいっぱいあった。でもあの頃、プロとして発展途上の私達劇団と一緒に、芸術鑑賞会を創ろうとしてくれた学校・先生方がたくさんいた。苦労が苦労ではなかった。でも、今、若い俳優達はゼロから生み出す創造の醍醐味を知る機会がなくなっている

ここに制作部がまとめた表があります。高校生の演劇鑑賞の機会は減少傾向にあることが分かります。現状厳しいとはよく聞きますが、制作部長のお話を聞かせてください。

祐樹 今、娯楽が多様化していて、「演劇でなければ」という意識が薄れています。演劇って、全てが生身の人間によって行われる活動で、その積み重ねの果てにたった一度の生の公演がある。それを、何

思っている。当時の情熱、創造する面白さ、それをどう若い世代に伝えていくか、その苦労に直面しています。

そこまで深刻な状況なんです。



制作部長 祐樹あい

18歳で「劇団青い森」に入団し、俳優として全国巡演に参加。35年以上続く「カーリーの青春」の初代トマス・J役。1994年、劇団自由人会の制作部長に就任。制作部を組織化し、長年、学校巡演活動を支えている。

ウクライナ難民支援チャリティー公演 「ヴェニス商人」 公演報告



約1年かけて取り組んだ「ヴェニス商人」。8月公演がコロナの為に中止となりましたが、お陰様で無事に2022年11月29日(火)、枚方市総合文化センター 関西医大 大ホールにて、「ヴェニス商人」の公演を実施しました。今回、チャリティー公演の為、公演当日には「国連 UNHCR 協会」の方にもお越しいただき、ロビーにて寄付の呼びかけも行っていました。今回、チケット収入の一部と募金をまとめて、2023年1月16日に8万円を「国連 UNHCR 協会」に寄付しました。協会からの感謝状を劇団ホームページで紹介しています。ご来場いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

かの人生観を変える程の力があって、心を豊かにする感動があつて、娯楽性も十分。私は、子供達に、小・中・高とそれぞれの成長過程で、生の演劇に触れて、視野を広げ、想像力や感性を育んでほしいと思っています。

(二〇二三年一月十九日対談にて。)

まだまだ対談は続く！「コロナ禍の劇団活動」「演劇文化の発展の為に私達が出来る事」「今後の夢」などなど

次の劇団新聞もお楽しみに！

制作部発信 全国学校巡演

芸術鑑賞会や学校巡演について日々寄せられる質問にお答えします！

Q
A

Q 芸術鑑賞会の様々なジャンルの中でも、演劇鑑賞が持つ最大のポイントは？

ストレートプレイだからこそ共有できる、感情の追体験。
舞台という非日常が多感な青少年期の五感を刺激し内面的成長を図ると同時に、ストレートプレイは登場人物やストーリーにより良く共感し、疑似体験あるいは追体験することで社会的成長の手助けができると考えます。
劇団自由人会は、青少年が一人ではなく、社会の中で他人と共に生きていく姿を描き続けてきました。生徒様が迷える時、人生のヒントになれる演劇鑑賞会をお届けします。

Q 上演時間を短くすることは可能ですか？途中休憩を入れることは可能ですか？

様々な事情から上演時間の調整を希望されることもあるかと思いますが、作品の集中力を損なわない為、基本的には変更なしでお願いしております。

Q 上演料の減額は可能ですか？

制作部では芸術鑑賞会を先生と共に創るという意識の基、出来るだけ学校様に寄り添ったご案内を続けております。その一つに、近隣学校での合同実施をご提案いたします。学校様同士でお声掛けいただき、芸術鑑賞会実施に向けて地域全体で取り組む場合もあります。お問合せの際には、より具体的な方法をご提案させていただきます。行事内容や日程変更等、ご協力を得ながら出来る限り上演を目指します。

Q 体育館での上演は可能ですか？

体育館によって広さや立地など条件が異なりますので、一概に出来るとは申し上げられません。体育館をご希望の学校様には、上演可否判断のため、計測や下見のご協力をお願いしております。

Q 交流会やワークショップはありますか？

劇団にとっても生徒様と直にコミュニケーションが取れる機会でもありますので、出来る限り対応させていただきます。実施条件は、会場やタイムスケジュールにもよりますので、ご希望の際には事前にご相談ください。

Q 感染症により上演不可になった場合、こういった対応になりますか？

感染症や災害が理由による、不可抗力の場合、キャンセル料は基本発生いたしません。但し、公演が消滅しないよう、必ず延期での実施をお願いしております。詳細は、劇団キャンセルポリシーに基づきます。劇団自由人会では、徹底した感染症対策を続けております。鑑賞会に向けた感染症対策に悩まれる学校様の声も届いておりますので、誠実にご対応させていただきます。



! 実施条件は学校様によって異なります。一つ一つに合わせてご提案させていただきますので、詳しくはお問合せください。

公演後に生徒さんとの交流会!



2022年7月14日 東舞鶴高等学校公演にて

「カーリーの青春 ~again~」 班より!

二〇二二年はコロナによる行動制限も緩和され、各学校での鑑賞会も少しずつ戻ってきた。

『カーリーの青春 ~again~』も無事に二〇二二年計16ステージを上演することができた。

声を出さないようにと観劇の仕方から手拍子と共に伝わってきた、参加したい! 楽しみたい! という生徒達の気持ちがとてもうれしかった。同時に、生徒達のマスク越しではない笑顔を見られる日が早く戻って来てほしいと心から思った。

40年も愛されているこの名作を、これからも多くの方々に観ていただき、愛と

感動を届けられるよう、また、生徒達と交流できる「日常」が1日でも早く戻る事を願って、今年も皆で進んでいきたい。(ハービー役)井出美空



インスタで各公演の様子が分かるよ!



作品紹介の動画(ダイジェスト版)が新しくなりました!

2022年度



巡 演 報 告

Instagram



「夢をかなえるゾウ ~青春ロボット編~」

ある友人に「劇団でシェイクスピアをやるから観に来ないか」と誘ったら、つまらなさそうだからいいとあっさり断られてしまった。聞けば、彼は過去にシェイクスピア作品を観た時、変な抑揚のついた台詞とダラダラと続く物語に辟易し最後まで没入できなかったと言う。しかし、本来シェイクスピア作品には弱強五歩格という心地よいリズムとタイミングが多用され、台詞のリズムとタイミングが音楽的という特徴がある。また、当時は舞台装置等が無く転換や暗転を挟まないため、物語は今より相当テンポよく進んでいたらしい。つまり、音楽性のある台詞とテンポある展開こそが名作を引き立てる最高の武器なのだ。

ただし、これを現代日本で上演すると難易度が跳ね上がる。まず翻訳家は音楽性を損なわない台詞に置換すべく解釈を重ね、表現を吟味し尽さねばならないし、現代の俳優は意味や心情重視で台詞を吐くりリズムが染みついてるので、自らの声で美しく紡ぐ難しさに挑まなくてはならない。

舞台美術に至っては、展開の助けになることが絶対条件である。だからこそ四〇〇年以上の間、その高き壁に世界の演劇人が挑み続け、その成果を享受すべく多くの観客に愛され続けてきたのだろう。

かくいう私もシェイクスピアを私淑する一人で、『夢をかなえるゾウ ~青春ロボット編~』も彼の作劇法を模範としている。観劇自体が初めてという生徒児童も多い芸術鑑賞会では、リズムカルなセリフの掛け合いとスピーディーな場面展開は、センチティブな思春期特有の悩みを扱った本作を最後まで関心を持って観てもらうための重要な要素のひとつになっている。

そんな本作も今年で7年目。その間にもルッキズムやジェンダーなど社会問題や価値観は変化してきた。その変化は当然我々の創作過程にも影響し、今また脚本に推敲を重ね新たな視点と解釈を注ぎ込んでいる。舞台は社会の鏡だ。四〇〇年は無理でも、未来ある若者と共に考え、エールを送り続けられる作品でありたいと願う。(演出)杉野じんべえ

編集後記



2023年は、希望にあふれた年になりますように。最後まで読んでくれてありがとう。あなたにサチアレ (制作 / 児玉)